

日本語指導が必要な子どもたち 全員の支援をめざして

— あらゆるリソースとの連携・行政との連携 —

ポスター番号15 青少年多文化学びサポート

発表者 徳丸新二・持丸邦子

2018. 3. 3 (土)

子どもの日本語教育研究会 第3回大会 (聖心女子大学)

実践地域 (埼玉県所沢市) の概要



- ★日本の航空発祥の地：フランスのアンリファルマン機、飛行、フランス人技術者家族の滞在 (明治時代)
- ★戦後の占領期は米軍基地となる。
- ★2016年3月まで、中国韓国省定促進センターがあり、多くの中国・韓国籍者がここに、豊初の日語、日本の生活、習語を身につけた。韓国籍者も滞在→日本語指導の要請あり。
- ★中国・ロシア関係日本人が多い。
- ★市内・近隣に国際的な教育機関・宗教施設あり；カナダ公認国際学校、モスク、CAJ (東久留米)
- ★市内に多いカレー屋・中華料理店
- ★「ととろのふるさと」宮崎アニメの原点

埼玉県所沢市
人口約34万人
池袋より西武池袋線
約25分に立地
面積が広いために、
子どもだけの移動が
難しい地域あり。

学習支援対象者の概要

所沢市情報センター

所沢市在住 16歳未満 国籍別人口

2015.12.31現在→2017.12.31現在

() 内は2017.12.31の全年齢人口

国籍	2015.12.31現在	2017.12.31現在	年齢別人口 (2017.12.31現在)
1. 中国	157→198 (1,800)		0~6歳 240名
2. フィリピン	58→71 (595)		7~12歳 (小学生) 147名
3. 韓国	56→46 (653)		13~15歳 (中学生) 54名
4. 大韓	23→28 (117)		16~18歳 (高校相当) 92名
5. ブラジル	21→ナバル 13 (201)		
	・ ブラジル 13 (177)		
	・ 米国 13 (128)		
	・ ベトナム 8 (486)		

2. 日本語指導の実態

1) 在学校での公的な学習支援

- ・ 所沢市立小学校・中学校での公的支援 (小学校32校・中学校15校)

所沢市教育センターからの講師派遣 (2016年度実績)

所沢市教育委員会発行『所沢の教育 平成29年度』2017年8月。

対象：小中学校生 のべ42名
時間数 7.8時間/人あたり 17.8時間 1回/週~月
母語話者講師6名 (入門・初期指導)

需要の高い母語は1名あたり回数減

日本語指導ボランティア講師 (教科学習指導も含む) 1名

- ・ 埼玉県立高等学校での公的支援

定時制 多文化共生推進員 + 学習支援

全日制 日本語コミュニケーションアドバイザー

2) ESMYの活動概要 (学習・教科支援)

青少年学習支援 (日本語初歩~教科学習) : 2016年度 50名/希望により、保護者の日本語学習支援も (2016年度 8名ほど)

★平日 学校への派遣 (2012~2016年度: 1、2校/年、2017年度: 6校)

★放課後教室 (各教室で義務教育以降の青少年受け入れ)

月 (17:30~19:30) : ふらっと

火 (17:30~19:30) : 新所沢公民館/榎峰3&4公民館別館

水 (16:30~18:30) : 中惠 : 自治集会所・地域居住者限定

木 (17:30~19:30) : 狭山ヶ丘コミュニティセンター

金 (15:30~17:30) : 恵所沢 : 自治集会所・地域居住者限定

日中の教室開設 (対象: 既卒青少年、不登校児童生徒など/要請により) 2017年度 視察実習青年の支援 (トナリ)

★土 (10:00~12:00) ICN日本語ラウンジと共同: 新所沢公民館

★中3生特別支援/

長期休暇期間中

(春5日間・夏10日間・冬4日間)

会員数52名 (可動者35名)



3. 日本語指導の必要な子どもたち全員の支援を目指す取り組み

3.1 日本語指導の必要な青少年の把握

1. 在籍・通学←学校での日本語指導が必要な子どもの把握
2. 在籍・不登校←日本語が不十分なための不登校か他の理由での不登校かを学校で把握
3. 就学年齢児童・生徒の未就学←自己申告・近隣からの通報
4. 義務教育年齢を越している青少年 (海外での既卒) (日本での既卒) (未就学) ←自己申告・近隣からの通報

1 & 2 小・中学校在籍者の事例

★教育現場での把握漏れ・支援決定不調

担任←管理職←保護者の許可←市教育センター←母語話者の派遣 (学校生活への適応・学校生活に必要な初歩の日語指導)

- ?なぜ、保護者の許可が必要か?
- ?担任が必要と把握しない場合;
- 会話が流暢/文字が書き取れている
- ?テストができない←勉強ができない
- ?教室活動が不安定←発達障害か?

★不登校

- ・ 最初は無校
- ・ お世話役の母語話者の同級生受検期になり、お世話が少なくていじめを思ってしまう→不登校へ
- ・ 初めから不登校
- ・ 日本語ができないことへの不安
- ・ < 事前解決事例 >
- ・ 入学・編入前の日本語指導 (3例あり: 小学校高学年・中学生)
- ・ 入学・編入と同時に日本語指導開始・母語でのカウンセリング (特に高学年)

3 & 4 就学年齢者および若者の未就学

自己申告・近隣からの通報→福祉・教育関係機関による把握

これまでの把握事例

- ・ 市役所関連: 生活福祉課、生活保護申請者への聞き取り、ケア・スワーカーからの働きかけ/子ども支援課/青少年課/学校教育課/社会教育課/保健センター
- ・ 児童相談所 虐待事案よりの把握
- ・ 社会福祉協議会: 民生・児童委員による把握は難しい (現状は高齢者支援が中心)

近隣の会員/社会教育課/保健センター

- ・ 支援可能策
- ・ ESMY教室 (青少年に特化した日本語ボランティア教室)
- ・ 日本語学習支援のためのフリースクール (有料)
- ・ 夜間中学 (埼玉にはなし)
- ・ 定時制高校

3. 1 情報提供

(学習者把握・支援者確保)

チラシ配布

- ・ 所沢市教育委員会 (小・中学校/公民館/図書館/生涯学習推進センター)
- ・ コミュニティセンター/市民活動支援センター/男女共同参画推進センター ふらっと
- ・ 所沢市子ども未来部 保育幼稚園課
- ・ 所沢市福祉部 (生活福祉課/子ども福祉の未来部)
- ・ 市内スーパー (掲示)
- ・ ネットによる情報発信
- ・ 市民活動支援センター (HPの設置)
- ・ 所沢市社会福祉協議会 (ボランティア情報センターからの発信)
- ・ 開発教育協会 (DEAR)

3. 2 活動会場の確保

公的施設利用にあたっての協力機関

- ・ 所沢市教育委員会社会教育課 (公民館/生涯学習推進センター)
- ・ 所沢市市民部 (コミュニティセンター/市民活動支援センター)
- ・ 男女共同参画推進センター ふらっと
- ・ 所沢市福祉部 (子ども福祉の未来部)

自治会の協力 (自治会集会所の利用)

- ・ エステンティ (中富) 自治会
- ・ 東所沢和田三丁目 自治会
- ・ 社会福祉協議会の子ども支援事業との連携

3. 3 学習支援人材の確保・育成

- ・ 支援者に求める資質: 子どもの好きな人/多様な考え方を受け入れられる人
- ・ 人材源: 元教員/元PTA/海外在住経験者/大学・大学院生
- ・ 人材育成: 自前にこだわらず

1. ESMY研修 (夏・冬)

2. 所沢市社会教育課主催

日本語ボランティア入門講座(4回)・実践講座(2回)

3. 埼玉日本語ネットワーク研修 (6月・11月)

4. 子どもの日本語教育研究会 (全国大会・ワークショップ・研究大会)

5. 文化庁日本語教育大会 (8月)

3・4 支援のための財政基盤 政府の移民政策策定へ

所沢市

- ・ 予算不足 (他市と比べれば、優良財政)
- ・ 教育行政部署の財政獲得への遠慮 (文科省も)
- ・ 国への補助金申請へ

ESMY

- ・ 助成団体への助成申請 → 必要額の把握 → 行政・市議会への働きかけ

補足: さらなる支援をめざして
地域のあらゆるリソース活用&目的

★国際交流関係

国際交流フォーラム実行委員会: 学習者が自信をつける機会
活動の広報

日中友好協会所沢支部: 学習者出身地の現状把握

★子ども関係: 学習者が自信をつける機会

所沢子どもルネサンス実行委員会

地域の文化団体 市民劇団 銀杏の会)

ミュージカル「青い鳥」出演 楽屋 (「これから生まれる子どもたち」役)

公民館文化祭

